
介護施設でのクラスター発生時における透析病院間との連携

特別養護老人ホーム こくら庵

○福本 駿 江嶋祐介 藤原久子 船越 哲

【背景】

当施設は、透析病院に併設し透析患者を受け入れているユニット型の特別養護老人ホームである。今回施設内で新型コロナウイルスのクラスターが発生したため、透析病院と連携し対応した例を報告する。

【対応・経過】

2022年8月11日、入居者1名に発熱症状があり、抗原定量検査(ルミパルス)で陽性が判明した。同日に同フロアの入居者6名、最終的に職員7名が陽性となった(入居者6名:平均87.8歳、職員7名:平均48.3歳)。入居者は全て透析患者であったため、陽性判定と共に併設の透析病院において隔離入院となった。陽性の職員は自宅療養とした。またその間、当施設の空室に入院患者をショートステイで受け入れ、透析病院の病床を確保した。

【まとめ】

当介護施設が透析病院に併設しており、常に病院と連携を取る事が出来る環境であるため、施設側からの緊急的な入院や、病院から入院患者の一時的な受け入れを行う事で病床の確保が可能となっている。今回も透析病院の素早い陽性者の受け入れで入居者の感染者増加を防ぐことが出来た。